

チュウヒ

Circus spilonotus Kaup

タカ目タカ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

国カテゴリー 絶滅危惧 I B 類

選定理由

海岸、河川、湖沼などの周辺にあるヨシ原を中心とした湿原生態系の頂点に位置するタカで、湿原の埋め立てや乾燥により、生息、営巣環境が悪化しており、繁殖個体数が減少している。

形態

全長約55cm。翼開長約1.3m。雄よりも雌が大きい。トビよりもやや小さく細身のタカで、翼と尾と足が長い。色彩パターンには変化が多い。雄は頭部が灰色で淡褐色の縦斑があるものと、黒色縦斑が密にあり一見黒く見えるものがある。雌は全体に褐色をしている。

国内分布

北海道、東北地方（青森県、秋田県）、中部地方（石川県、富山県、愛知県、三重県）、近畿地方（滋賀県）の湖沼や海岸の干拓地のヨシ原で繁殖しており、関東地方（茨城県、栃木県、千葉県）でも繁殖の可能性がある。冬期は大陸から冬鳥として渡来する個体が多数あり、全国のヨシ原で観察される。

県内分布

柴山潟、河北潟、邑知潟、七尾西湾などで少数が繁殖している。越冬期には他地域から冬鳥として渡来するものがあり個体数が増え、県内各地の海岸や湖沼のヨシ原でも姿が見られる。

生態

巣は水に近い比較的乾燥したヨシ原や草原の地上にヨシの枯れ茎を積み上げてつくる。産卵は4月下旬頃で、一腹卵数は普通5～6個、抱卵日数は35日前後、孵化後約35日で巣立ちする。広いヨシ原の上をゆっくりとした羽ばたきと滑空を交互にして低く飛び、獲物を見つけるとすばやく下りて捕らえる。餌はネズミ類やカエルなどである。

生息地の条件

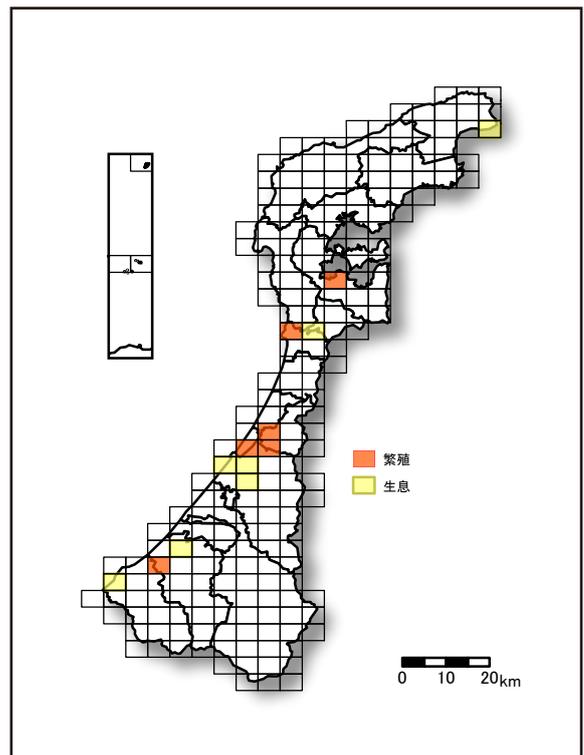
繁殖するためには、営巣場所および餌場として広いヨシ原が必要である。また、巣を地上につくるので外敵に襲われやすく、人間活動にも影響を受けやすい。

生存の危機

特に河北潟での遊休農地の整理や乾燥化によるヨシ原の減少で、繁殖できる環境が年々減少している。
(A)

特記事項

石川県希少野生動物種（2006年）。



県内の分布